

内外交差点

インテグラル・タクトダイヤ発想で考える 交通空白・ドライバー不足時代のMaaSとタクシーの役割

日高 洋祐氏 (MaaS Tech Japan代表) 第10/12回

こんにちは、MaaS Tech Japanの日高です。今回は少し視点を広げ、オーストリアをはじめヨーロッパで導入が進む「インテグラル・タクトダイヤ」という新しい公共交通の取り組みを手がかりに、日本が直面している交通空白の拡大、ドライバー不足、そしてMaaSとタクシーの役割について考えてみたいと思います。「海外の先進事例」と聞くと、日本の現場とは距離があるように感じられるかもしれません。しかし、ここで紹介する考え方は、実はこれからの日本のモビリティ事業にとって非常に示唆に富むものです。

交通空白とドライバー不足は、もはや一体の問題

国土交通省が「交通空白の解消」を重点政策として掲げていることは、業界の皆さまもご存じの通りです。高齢化、免許返納、人口減少により、バスや鉄道が維持できなくなった地域が増えています。一方で、タクシー業界自身も深刻なドライバー不足に直面しています。つまり今の日本では、①交通を必要とする人は増えている②しかし、運ぶ人も車も足りない——という状況が同時に進んでいます。このとき重要なのは、「どの事業者がどれだけ頑張るか」ではなく、**地域全体として移動をどう設計し直すか**という視点です。

インテグラル・タクトダイヤとは何か

インテグラル・タクトダイヤとは、簡単に言えば「公共交通を、あらかじめ決めたりズムで必ずつながるように設計する」考え方です。例えば、「鉄道や基幹バスは、毎時00分・30分など決まった時刻に到着する」「乗り換え地点では、別の路線や交通手段が同じタイミングで集まる」「多少本数を減らしても、接続関係は崩さない」という設計を行います。オーストリアでは、この考え方を全国レベルで導入し、減便局面でも「乗り換えが極端に不便にならない公共交通」を実現しようとしています。

この考え方が、なぜ日本の交通空白に効くのか

日本の地方で問題になっているのは、「本数が少ないこと」以上に、「いつ行けばつながるのか分からない」ことです。ここでインテグラル・タクトの発想を日本型に読み替えると、次のようになります。(1) 鉄道や基幹バスは「背骨」として、できるだけ分かりやすい時刻で走らせる (2) その背骨に、タクシー・乗合タクシー・デマンド交通を「枝」として接続する (3) 駅や病院、行政拠点などを「必ずつながる結節点」にする——こうすることで、住民は「この時間に行けば、必ず次

につながる」という安心感を持てるようになります。これは、交通空白を「完全になくす」ことはできなくても、移動の不安を大きく減らす現実的な解決策です。

ドライバー不足時代の鍵は「効率」と「接続」

ドライバーが増えない時代に、車両を増やすことはできません。だからこそ重要になるのが、**1両・1人あたりの価値をどう高めるか**です。インテグラル・タクト的な設計では、「需要が集中する時間・場所をあらかじめ作る」「結節点で相乗りが成立しやすくなる」「待機時間や空走を減らせる」といった効果が期待できます。実際、日本でも新大阪駅や東京・八重洲などのタクシー乗り場では、**同時乗車や乗り場運用の工夫によって、行列の解消、ドライバーの輸送効率向上、利用者満足度の向上**——が確認されてきました。これはまさに、「タクト（人と需要を集める）」発想を部分的に実装した事例と言えます。

MaaSとは、アプリではなく「運用の設計」

MaaSという言葉は、どうしても「アプリ」や「検索サービス」の話になりがちです。しかし、国が地域公共交通計画で求めているMaaSの本質はそこではありません。「どこで、いつ、誰が移動に困っているのか」「どの時間帯・エリアに供給が足りていないのか」「どこをタクシーで担うと全体が良くなるのか」——こうしたことを**データで把握し、改善を続ける運用の仕組み**こそがMaaSです。インテグラル・タクトダイヤは、その運用設計を非常に分かりやすくする考え方です。

タクシーは「最後の足」から「地域交通の要」へ

この文脈で見ると、タクシーの役割は大きく変わります。タクシーはもはや「バスや鉄道がダメになった後の最後の手段」ではありません。▽交通空白を埋めるフィーダー▽接続を保証する調整役▽ドライバー不足時代の需給バランス——として、**地域交通全体の品質を左右する存在**になります。インテグラル・タクトの考え方は、タクシーを“点のビジネス”から“ネットワークの中核”へ引き上げるヒントを与えてくれます。

おわりに

交通空白、ドライバー不足、MaaS。これらは別々の課題ではありません。「どうすれば、限られた人と車で、地域の移動を守れるか」。その問いに対する一つの答えが、インテグラル・タクトダイヤの発想です。

タクシー事業者が、この設計思想を理解し、自治体や他モードと連携していくこと。それが、これからの地域交通を支える現実的な道筋だと私は考えています。

